

くすのき

図書館だより 6月号
広島県立三原東高等学校図書館

梅雨の季節になりました。いつ降るか予測不能な雨，じめじめとした蒸し暑さ，どんよりとした雲にうんざりしている人も多いかもしれません。ですが，こんなときこそ，本を読んで気分転換してみてください。

～新着図書案内～

「研究するって面白い」伊藤 由佳理

数学，医学，化学，農学，薬学，生物など理系の専門分野で活躍する女性科学者11人による研究案内。それぞれの研究内容やその魅力を余すところなく伝えると共に，どのようにして進路を決め，今があるのかについても語ります。時に迷い，回り道をしながらもまい進していく姿に元気や生きるヒントももらえます。



「その姿の消し方」堀江 敏幸

古い絵はがきに綴られた十行の詩。細く長く結ばれてゆく幻の「詩人」との縁を描く待望の長篇。留学生時代，古物市で見つけた一九三八年の消印のある古い絵はがき。

廃屋としか見えない建物と朽ち果てた四輪馬車の写真の裏には，流麗な筆記体による一篇の詩が記されていた。

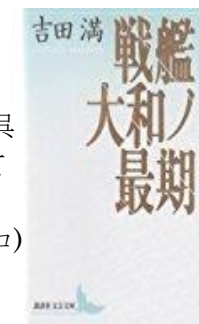
やがて，一枚また一枚と，この会計検査官にして「詩人」であった人物の絵はがきが手元に舞い込んでくる。二十数年にわたる縁を描く待望の長篇。



「戦艦大和ノ最期」吉田 満

昭和20年3月29日，世界最大の不沈戦艦と誇った「大和」は，必敗の作戦へと呉軍港を出港した。吉田満は前年東大法科を繰り上げ卒業，海軍少尉，副電測士として「大和」に乗り組んでいた。

「徳之島ノ北西洋上，「大和」轟沈シテ巨体四裂ス 今ナオ埋没スル三千の骸(ムクロ) 彼ラ終焉ノ胸中果シテ如何」戦後半世紀，いよいよ光芒を放つ名作の「決定稿」。

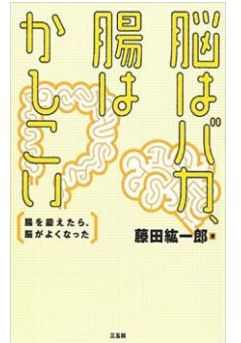


「脳はバカ，腸はかしこい」藤田 紘一郎

バカな脳は自分だけが満足すればいいので，甘いものや煙草やアルコールがやめられず，そのたびに身体(腸)は悲鳴をあげています。人間をコントロールしているはずの脳は，じつはダメなやつで，偏見まみれの自惚れ屋でした。

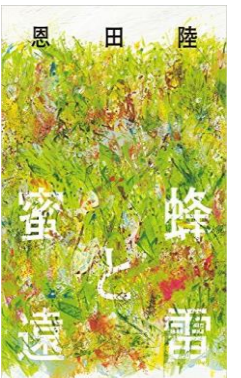
悠久の生物の歴史では，40億年前にまず腸ができ，そのずっとあと5億年前によく脳が誕生。生物と腸とのつきあいは長いものの，脳とのつきあいはまだ短く，それゆえ生物は脳をうまく使いこなせていない。

「腸内環境を整えることでドーパミンやセロトニンなどが脳に運ばれ，良好な精神状態が作られる」とする著者自身の最新研究成果も盛り込み，「脳」と「腸」の関係性について，わかりやすく紐解きます。



「蜂蜜と遠雷」奥田 陸

3年ごとに開催される芳ヶ江国際ピアノコンクール。「ここを制した者は世界最高峰のS国際ピアノコンクールで優勝する」ジンクスがあり近年，覇者である新たな才能の出現は音楽界の事件となっていた。養蜂家の父とともに各地を転々と自宅にピアノを持たない少年・風間塵15歳。かつて天才少女として国内外のジュニアコンクールを制覇しCDデビューもしながら13歳のときの母の突然の死去以来，長らくピアノが弾けなかった栄伝亜夜20歳。音大出身だが今は楽器店勤務のサラリーマンでコンクール年齢制限ギリギリの高島明石28歳。完璧な演奏技術と音楽性で優勝候補と目される名門ジュリアード音楽院のマサル・C・レヴィ=アナートル19歳。彼ら以外にも数多の天才たちが繰り広げる競争という名の自らの闘い。第1次から3次予選そして本選を勝ち抜き優勝するのは誰なのか？



この他にも新着図書はありますので，ぜひ図書館まで来てください。



読書週間 (5月22日～5月26日)

週間(朝読書)を実施しました。「いつもの勉強とは違った感じがしたかもしれないです」などの意見を聞くことができました。この他，図書委員を中心に寄せられた読書感想文等は「くすのき 7月号」から掲載していきたいと思っております。今後の読書の参考にしてみてください。